



# スポーツは「礼」から

## テニス協会 小学生ら4500人に教室

### マナーキッズ

テニスを通してあいさつやマナーを身につけてほしいと、日本テニス協会が「マナーキッズテニスプロジェクト」（読売新聞社など後援）に取り組んでいる。このほどプロジェクト名を商標登録、他のスポーツ団体にも一緒に取り組んでいこうと、呼びかけを始めた。

「マナーを知っていますか」。日本古来の礼儀作法を教える小笠原流礼法の総師範、鈴木万亀子さんの声に、元気よく手を挙げた子どもたち。東

京・杉並区の三谷小学校の体育館に、1年生30人の笑いが響いた。静まるのを待って鈴木さんが話し始める。マナーとは「約束を守る」。「話をしている人の方

を向く」。そして、あいさつ。ラケットは左手で抱え、背筋を伸ばし、腰を折って心を下げよう。子どもたちの表情は、真剣そのものだ。

同プロジェクトは、テニスの協会が小学校や幼稚園に「きちん」とあいさつできることに驚いた」と明かす。スポーツは、ルールやマナーと不可分だ。「スポーツを機にあいさつ運動を始めたところ、1年前には、「あいさつができる」子どもが約3割強だったが、今では約9割。4月に着任したばかりの伊東富士雄校長は「うちの子どもは、礼儀作法を学ぶ企画で、同小での開催は昨年に続き、

### 他団体にも呼びかけ

2度目だ。同協会の田中日出男プロジェクトディレクター（65）は「今の子どもはあいさつが出来ないのではない。教えていないのです」と言い切る。

実際に、同小で昨年の開催を機にあいさつ運動を始めたところ、1年前には、「あいさつができる」子どもが約3割強だったが、今では約9割。4月に着任したばかりの伊東富士雄校長は「うちの子どもは、礼儀作法を学ぶ企画で、同小での開催は昨年に続き、

母校の早稲田大学の庭球部に呼びかけ、小学生にテニスとマナーを教える教室を開いた。講師は、知人の紹介で知り合った鈴木総師範。日本テニス協会にも提案し、昨年4月、プロジェクトが実現、全国52か所約4500人が参加した。

## マナーキッズ



◆日本ハム・新庄の横付きシャツは禁止へ。4月30日のソフトバンク戦で、日本ハムの新庄が胸元の開いた横付きシャツを着てプレーしたことについて、パ・リーグの前川秀男・審判部長は「日、違和感がある。マナーの問題」とし、今後は認めない意向を明らかにした。試合当日は許可したもの、この日改めて、各審判から意見を聞くなどして協議した。

◆「マナーキッズ」を商標

登録。日本テニス協会は「日、現在進行中のプロジェクト（幼稚園・小学校マナー・キッズテニスプロジェクト）」（読売新聞社後援）の理念をテニス競技の枠を超えて浸透させるため、3月に「マナーキッズ」を商標登録したと発表。今後、日本オリンピック委員会傘下の各団体とライセンス契約を結びながら、スポーツを通して子どもたちの礼儀作法向上を図る活動の促進を目指す。

日本テニス協会では、テニス以外のスポーツを通しての普及も狙い、「マナーキッズ」という名称を商標登録、他の競技団体に呼びかけ始めた。海外での普及もめざし、今年6月、6人の「マナーキッズ」を英国ウィンブルドンに派遣する。

「あいさつが出来ない子ども」への対応には、日本サッカー協会も取り組んでいる。「元日本代表らを小学校に派遣して普及する」などを検討し、7月までにまとめ、今秋にもスタートする予定だ。（松本美奈）